

dn-1. ニューラルネットワーク

(AI演習の入門)

URL: <https://www.kkaneko.jp/ai/dn/index.html>

金子邦彦



アウトライン



1. 深層学習
2. ニューラルネットワーク
3. 活性化, 伝搬
4. ニューラルネットワークでの学習
5. ニューラルネットワークを用いた分類
6. 画像と画素
7. ニューラルネットワークの作成
8. 学習不足と過学習
9. ニューラルネットワークの利用の流れ

- ニューラルネットワークがどういうものか知りたい
- 実際に動かしたい。研究してみたい
(この資料により、実際に動かしてみることも可能)

1. 深層學習

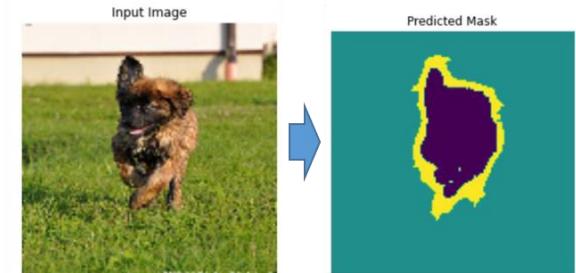
人工知能は、コンピュータが、知的な能力を持つこと

- 知能
- 知識
- 学習

さまざまな応用



顔検知、顔識別



画像のセグメンテーション



合成

This is an implementation of Mask R-CNN on Python 3, Keras, and TensorFlow. The model generates bounding boxes and segmentation masks for each instance of an object in the image. It's based on Feature Pyramid Network (FPN) and a ResNet101 backbone.

Webブラウザで翻訳を行う
Mate Translate (Web ブラウザ
Firefox のアドオン)

いまの人工知能 (AI) で、できること



- 知識表現, 知識の処理
- 人間の言葉に関する処理（自然言語処理）
- 認識や推論
 - 分類
 - 音声認識（人の声を「文字」化する）
 - 物体検知, 物体識別（画像の中から、「もの」を見つける）
 - 顔認識
- 合成
 - 創作
 - 欠損の補充
 - 翻訳

種々の技術がオンラインで公開されており,
自分のパソコンで試すこともできるように.

人工知能の種類



人工知能

機械学習

学習による上達の能力を持つ人工知能

知的な IT システム

ルールや知識を人間が書いた
人工知能

機械学習のメリット, デメリット

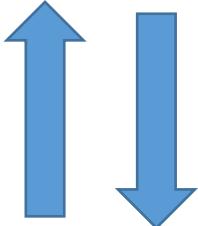


機械学習

学習による上達の能力を
持つ人工知能

メリット

「ルールや知識を, 人間がプログラムで書かねばならないことの限界を突破



デメリット

学習不足, 過学習,
などの注意点がある.
完璧に学習が成功する
わけではない.

知的な IT システム

ルールや知識を人間が書いた
人工知能

深層学習（ディープラーニング）



【できること】

- **学習による上達の能力（機械学習）**
→ 仕組みはシンプル。最適化（誤差を自動で最小化）
- **さまざまな応用**：人間の言葉に関する処理、認識や推論（音声、画像、顔、人体、3次元など）、合成、翻訳、欠損の補間など

【できないこと】

- 知識表現、人間が**目に見える形**での知識の獲得

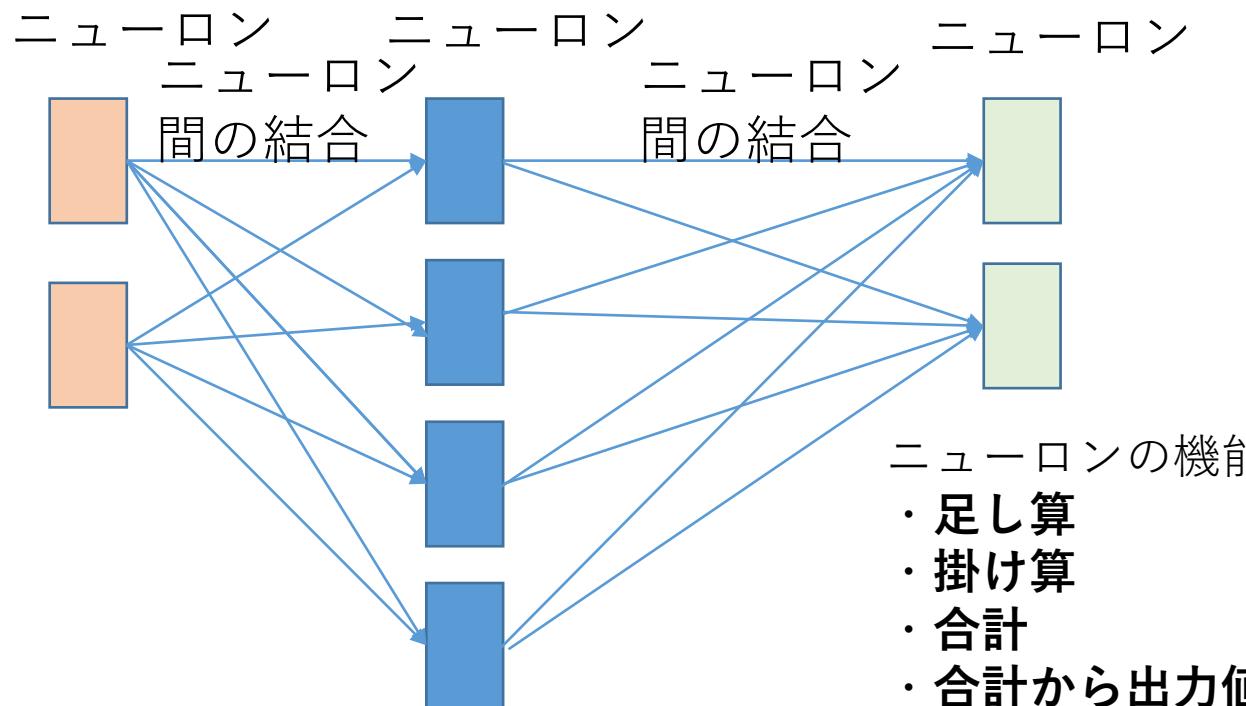
「なぜ、ディープラーニングが正しく動くのか」は、データによる検証が必要

2. ニューラルネットワーク

深層学習とニューラルネットワーク



ニューラルネットワーク（ニューロンのネットワーク）は、
深層学習（ディープラーニング）の能力を持つ

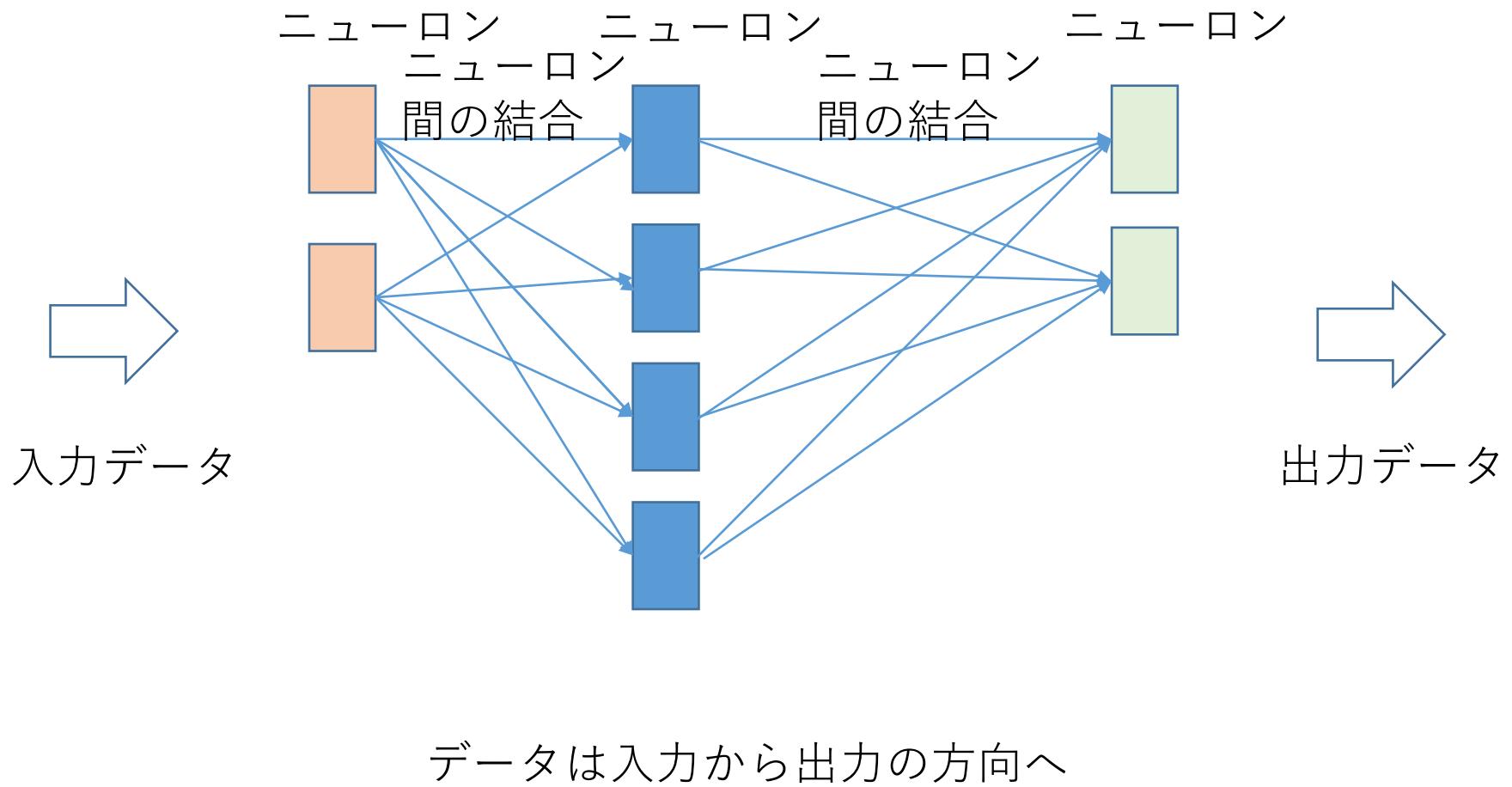


ニューロンの機能

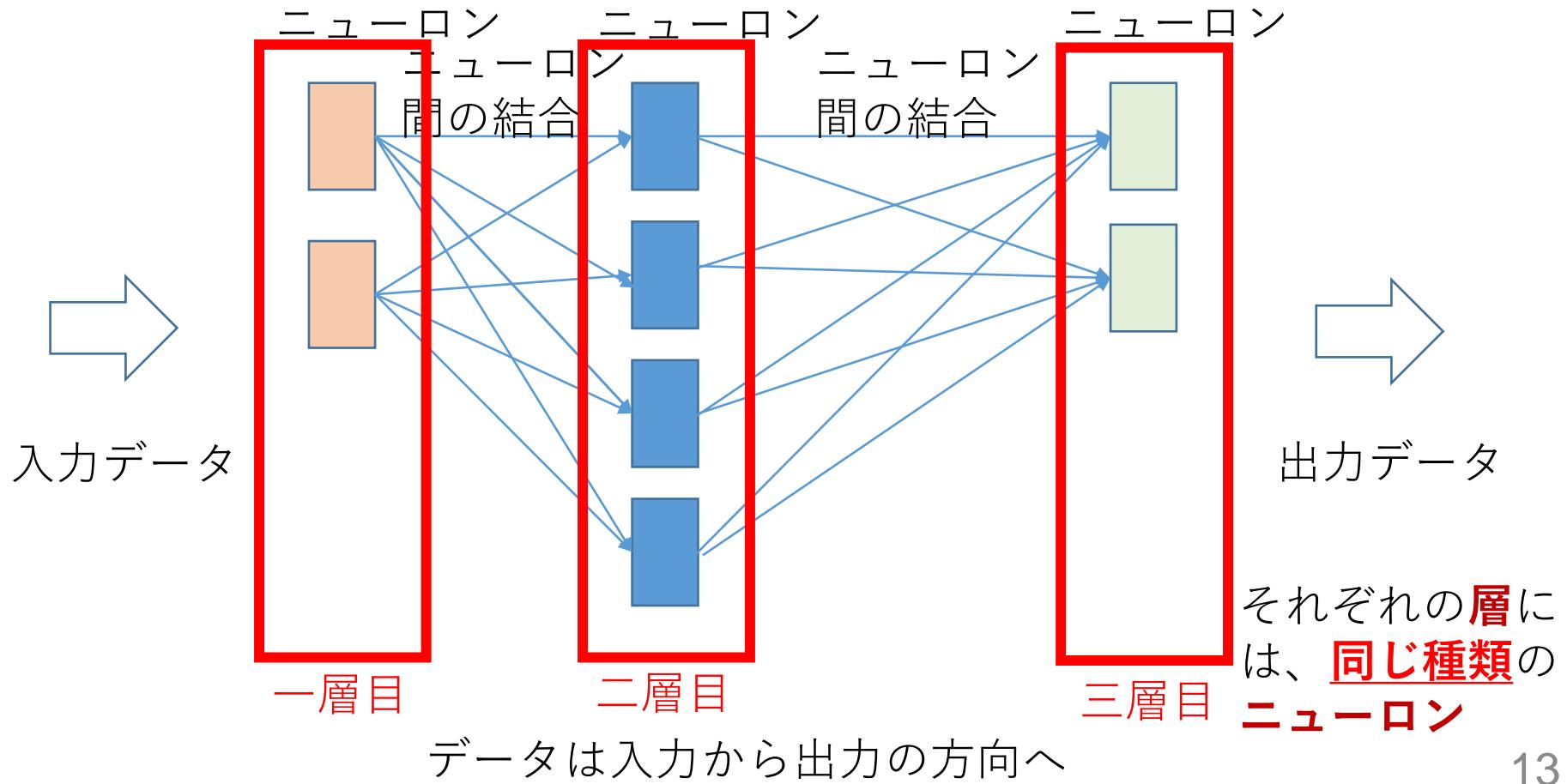
- ・足し算
- ・掛け算
- ・合計
- ・合計から出力値を算出
(活性化関数)
- ・メモリの機能も持つことも

ニューラルネットワークは、
コンピュータでシミュレーション可能

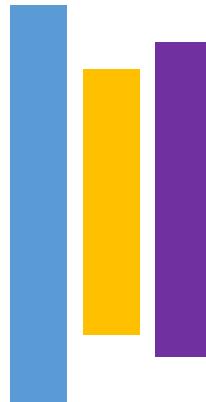
層が直列になっているニューラルネットワーク



層が直列になっているニューラルネットワーク



- 層の数が多い（多層の）ニューラルネットワークは、深層学習の機能をもつ
- 深層学習のことをディープラーニングともいう



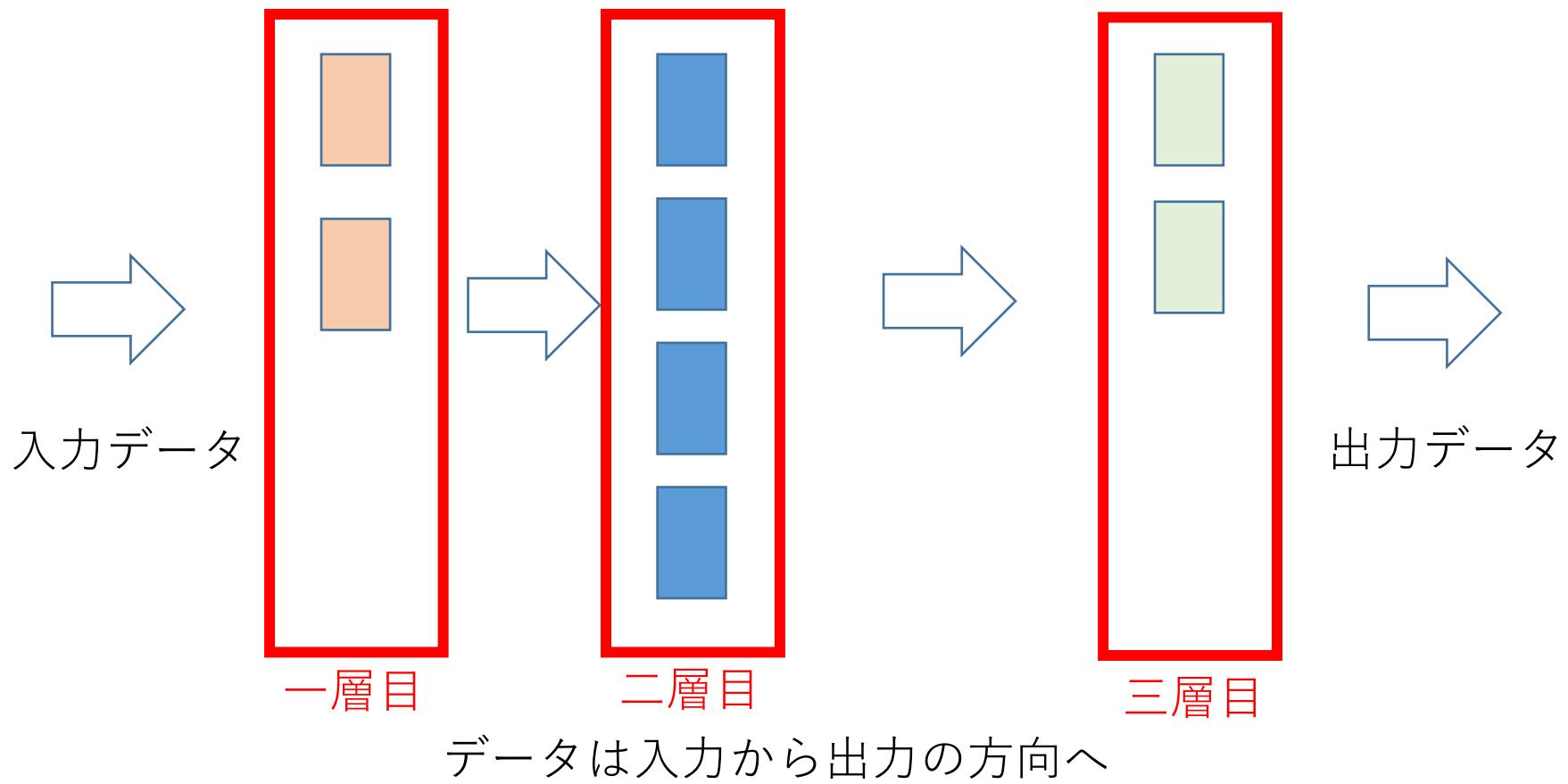
層数が少ない



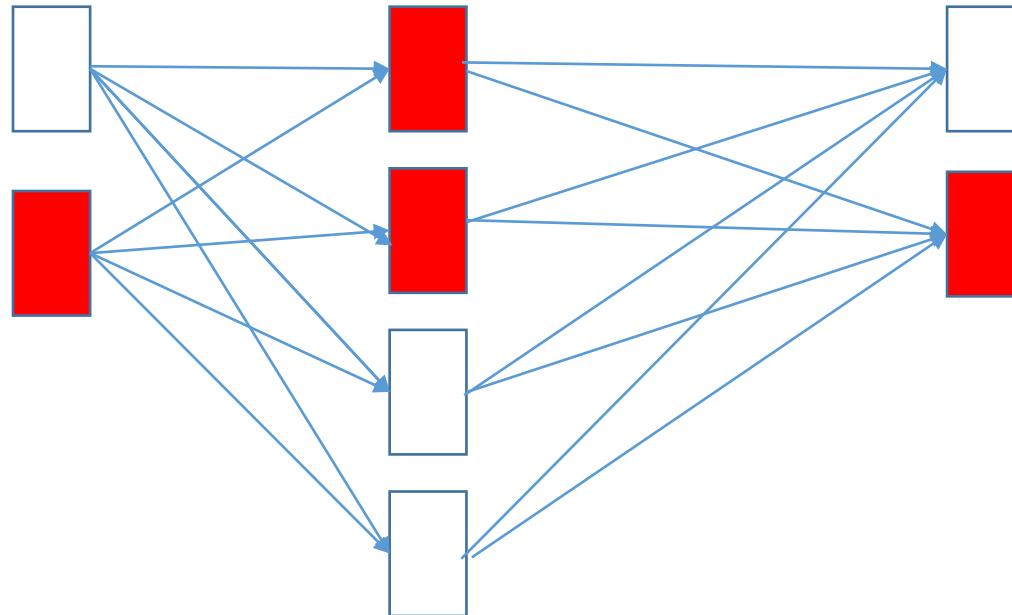
層数が多い（=多層）

3. 活性化, 伝搬

層が直列になっているニューラルネットワーク



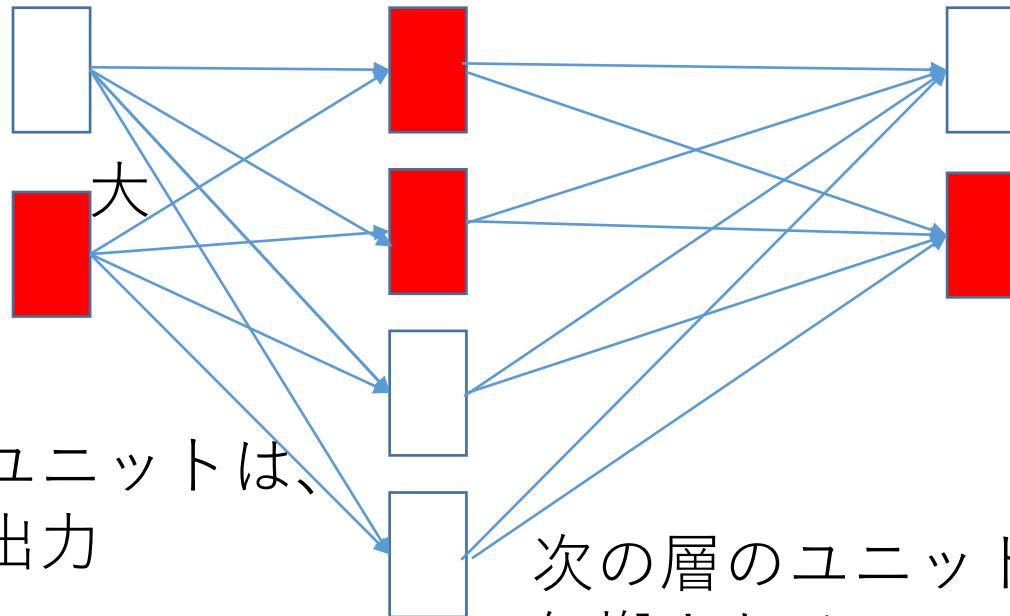
活性化と非活性化



ニューロンは**活性化**したり、**非活性化**したりする
(入力に応じて**ダイナミック**に変化)

伝搬

正の値で大
負の値で大

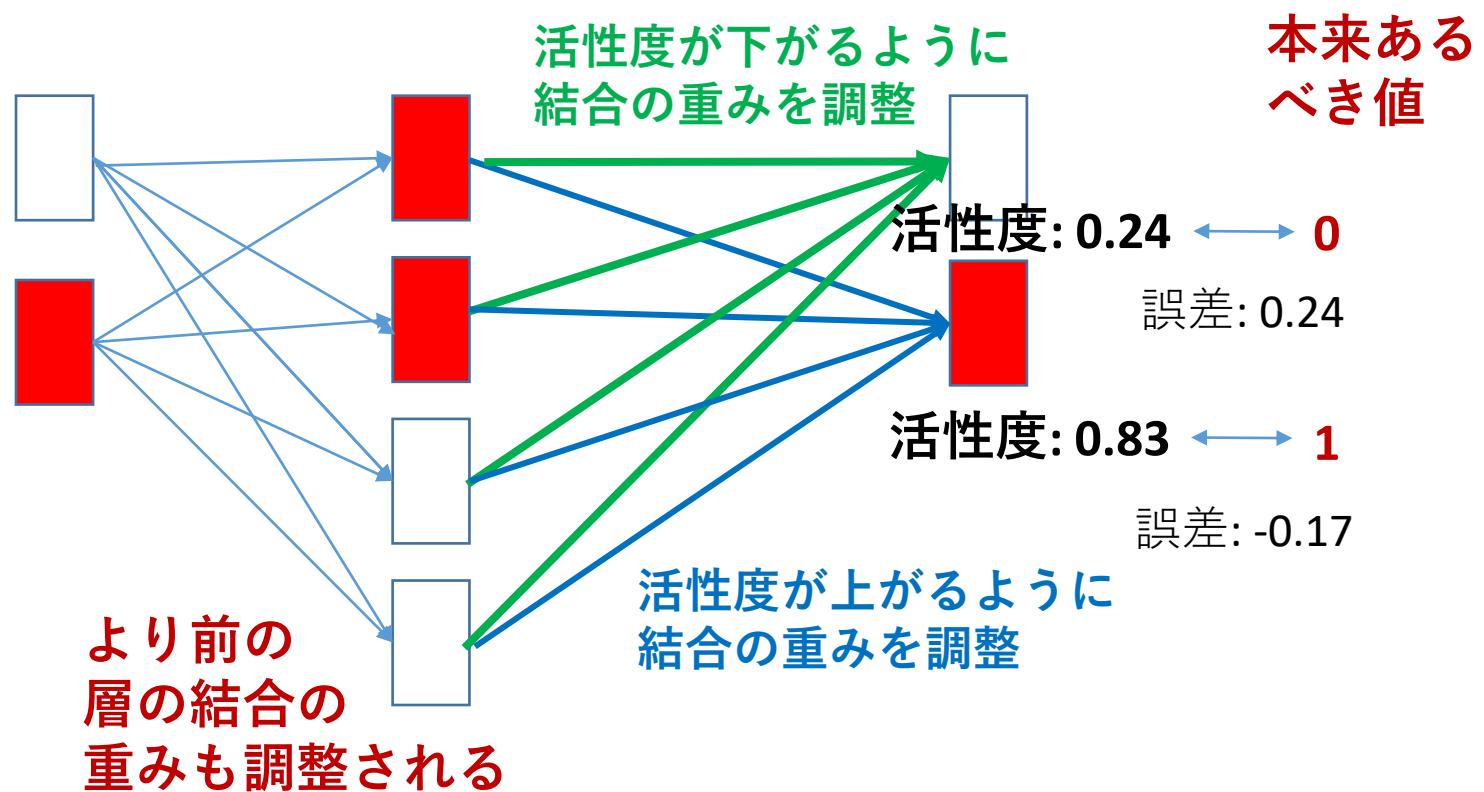


次の層のユニットに、大きな値が
伝搬される

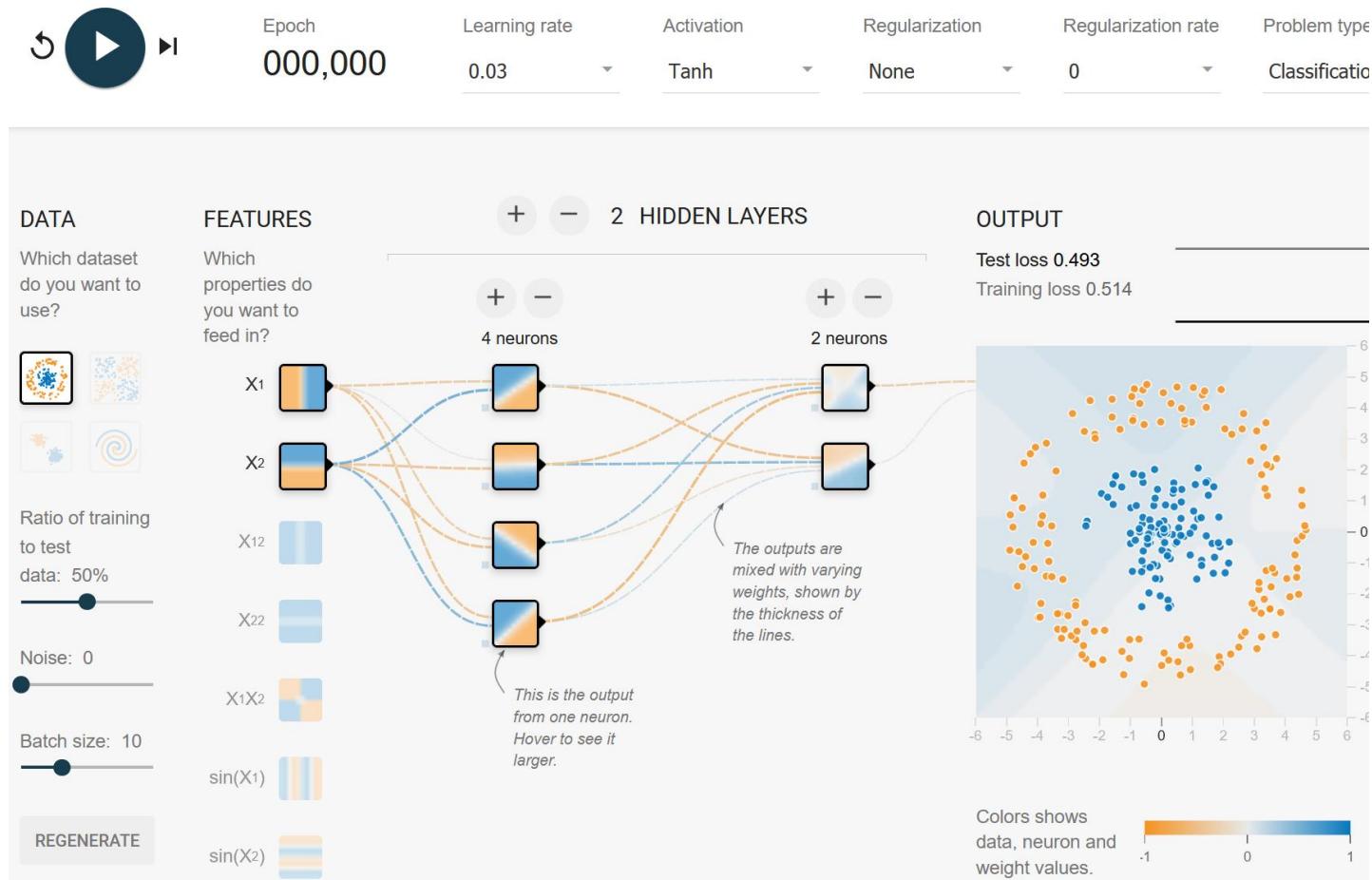
- ・重みが正なら、正の大きな値
- ・重みが負なら、負の大きな値₁₈

4. ニューラルネットワークでの学習

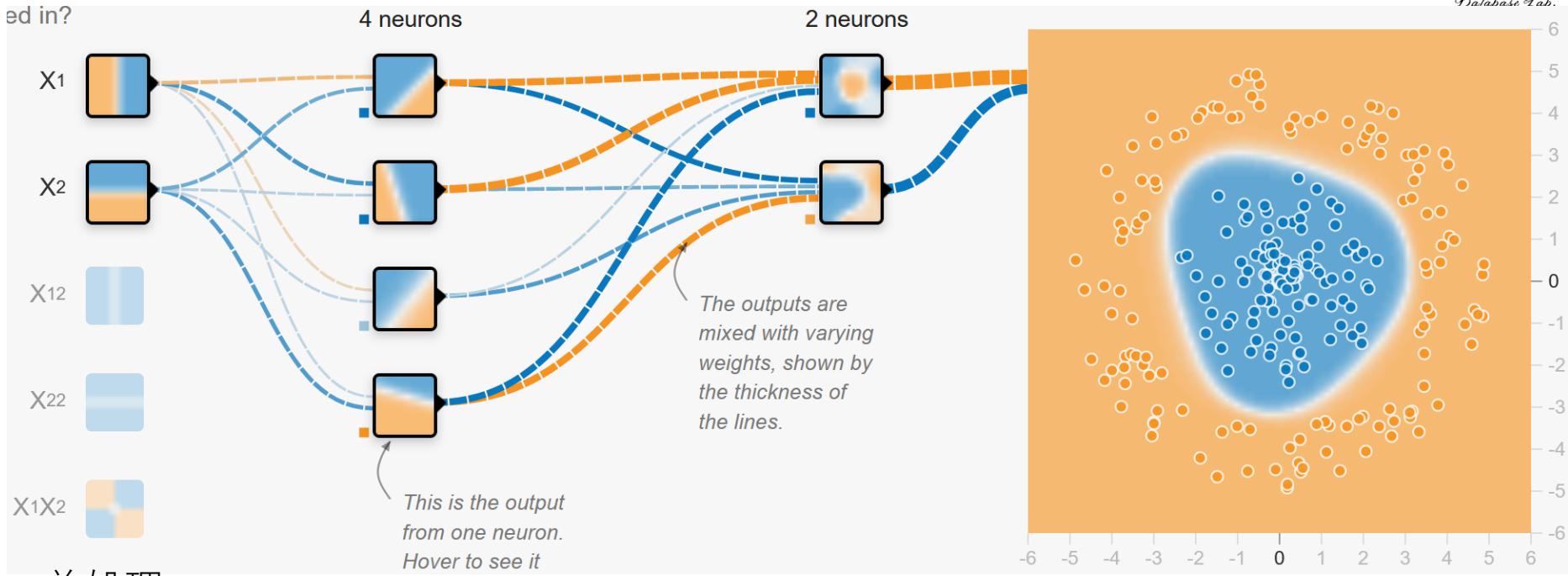
ニューラルネットワークの動作イメージ



学習能力をコンピュータに組み込んでおき, あとでデータを与えて学習させる



<http://playground.tensorflow.org>



前処理

(データが青い部分にあれば活性化)

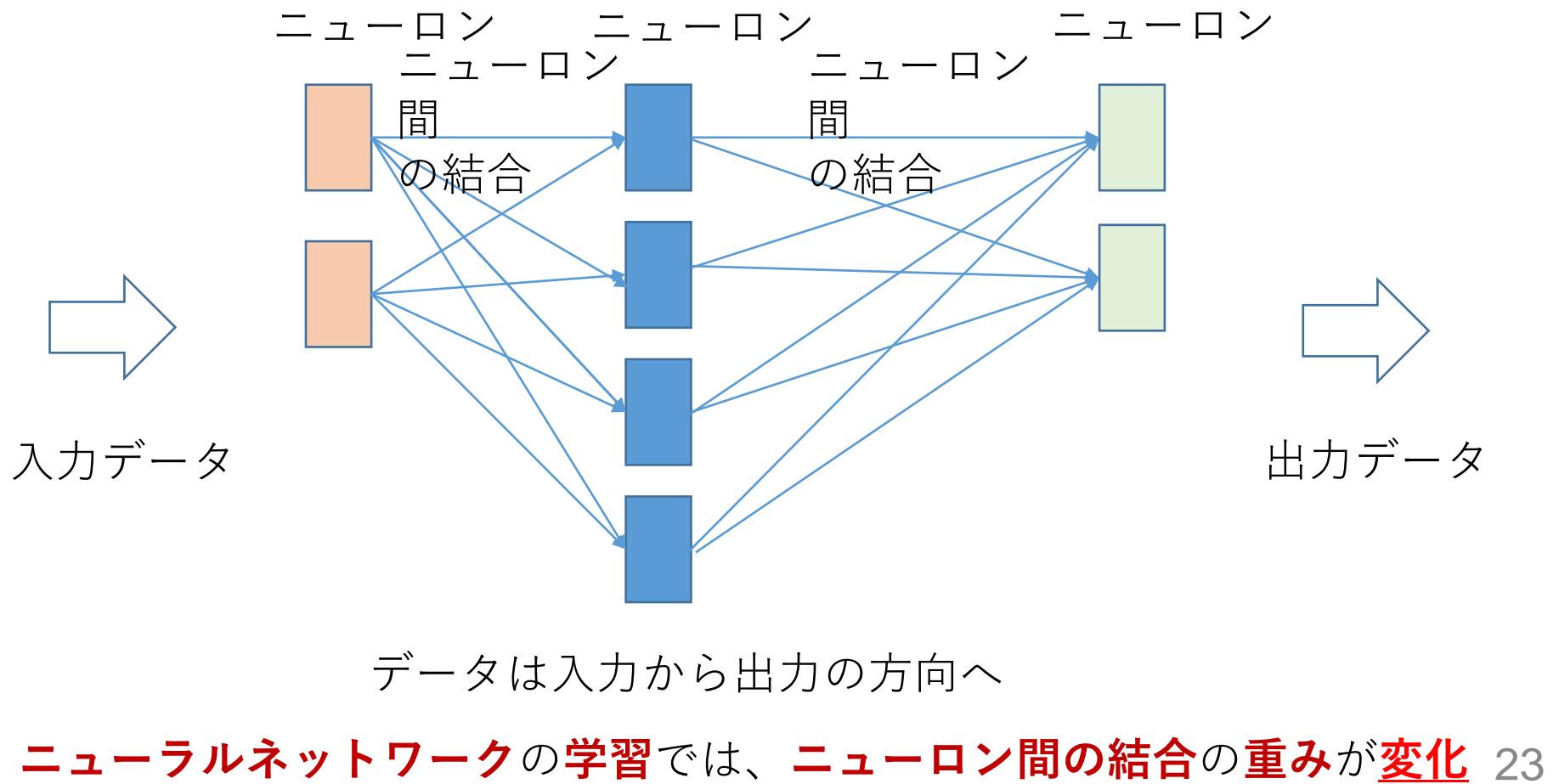
→結合→ 1層目

→結合→ 2層目

ニューラルネットワーク

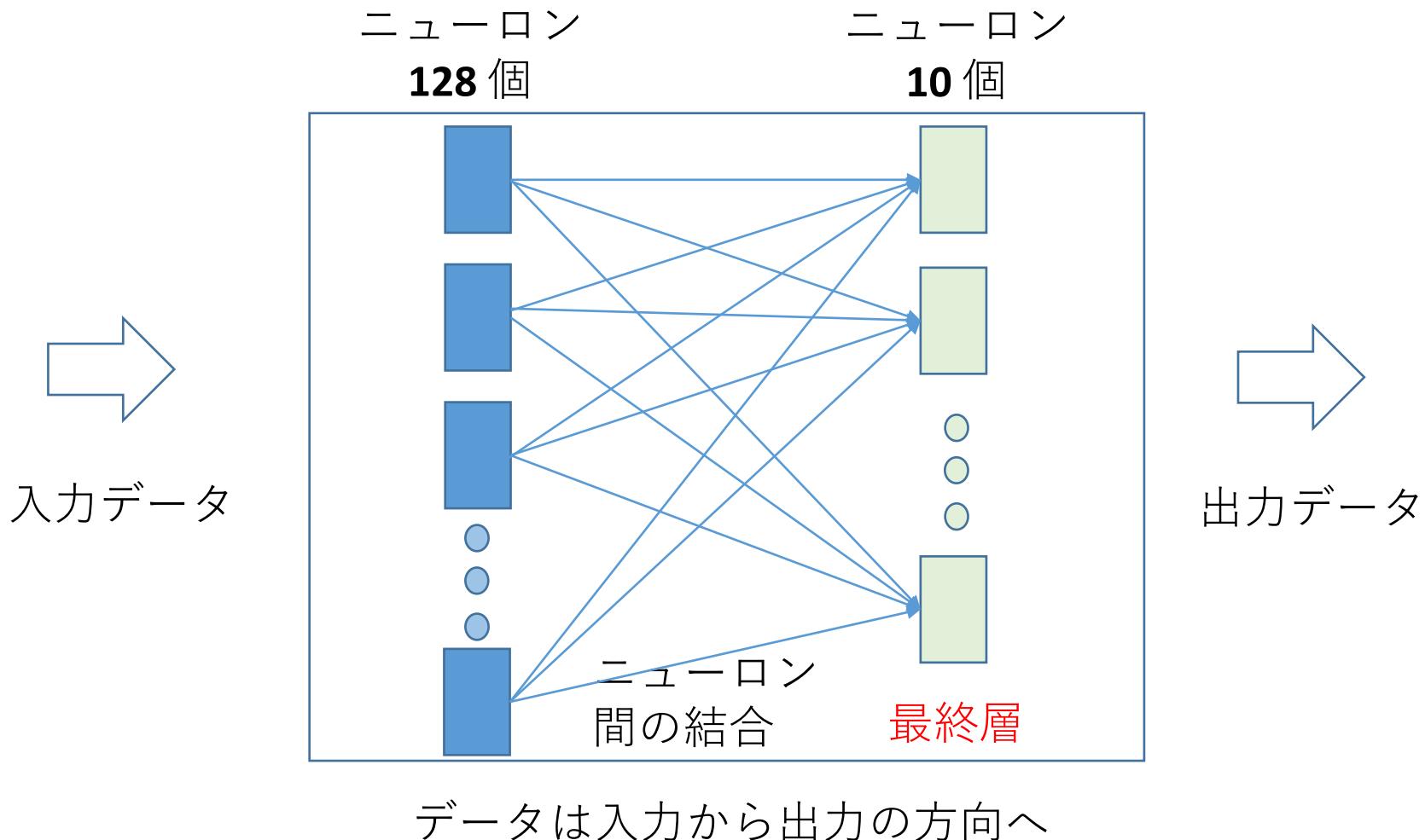
データが中央にあれば活性化

まとめ

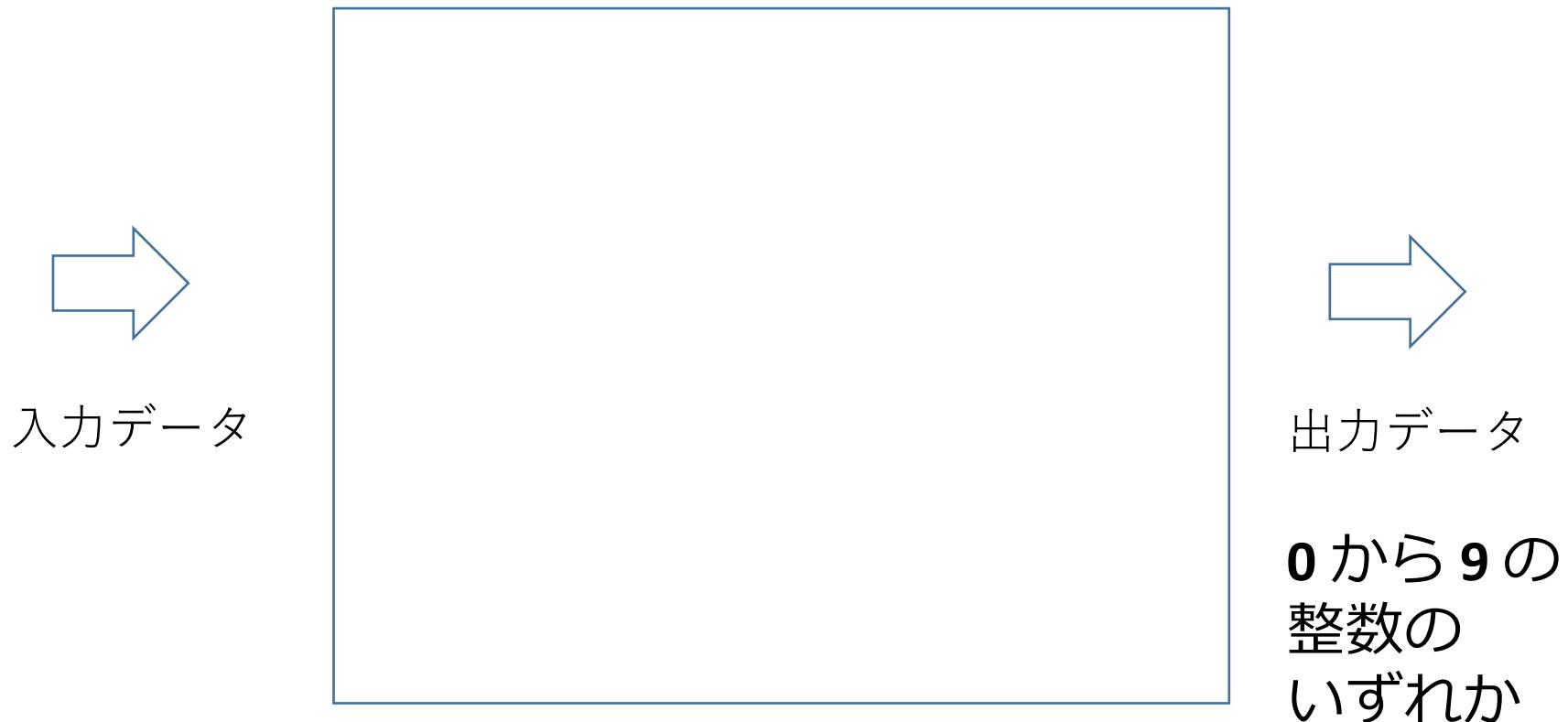


5. ニューラルネットワーク を用いた分類

層が直列になっているニューラルネットワーク

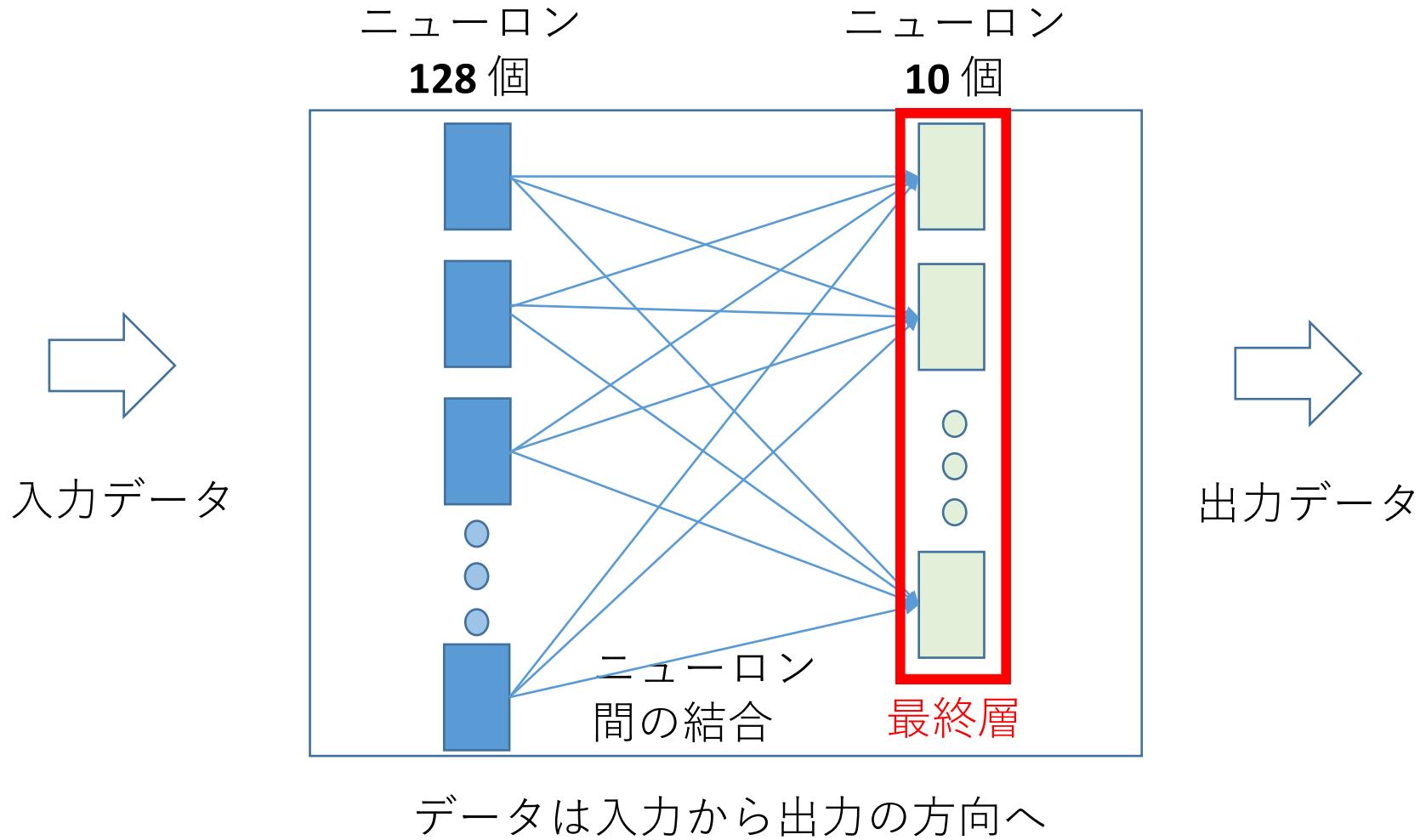


10種類の中から1つに分類する場合



10種類に分類するニューラルネットワーク

最終層について、1つが強く活性化するように調整



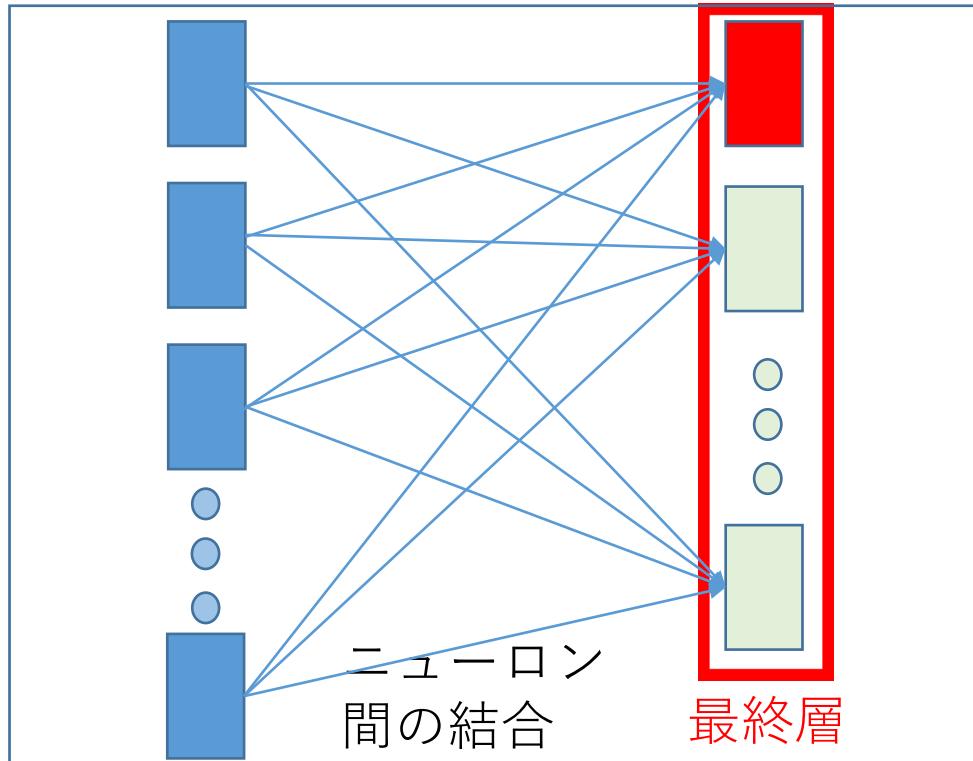
10種類に分類するニューラルネットワーク

最終層について、1つが強く活性化するように調整

ニューロン
128個

ニューロン
10個

→
入力データ



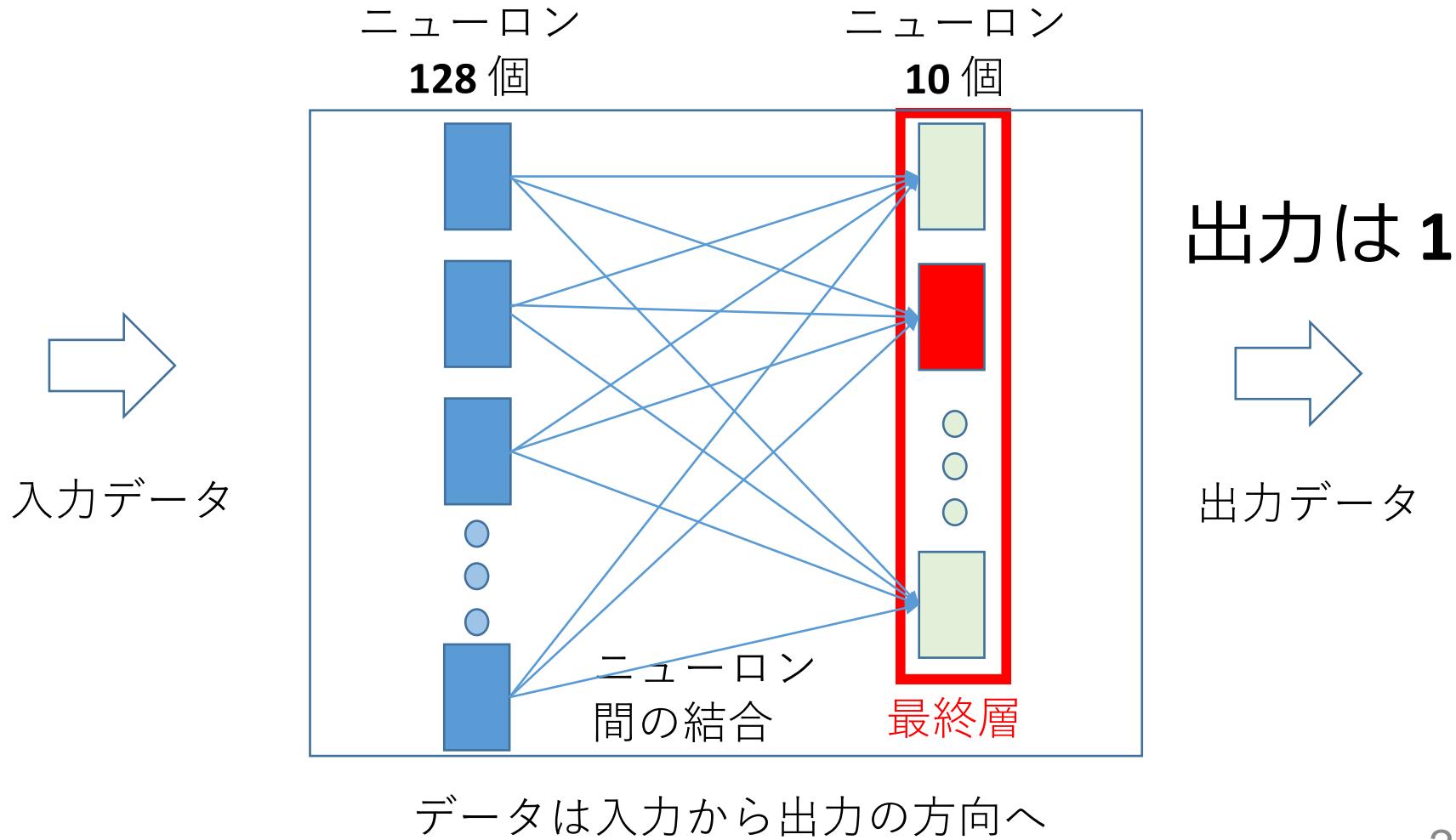
データは入力から出力の方向へ

出力は 0

→
出力データ

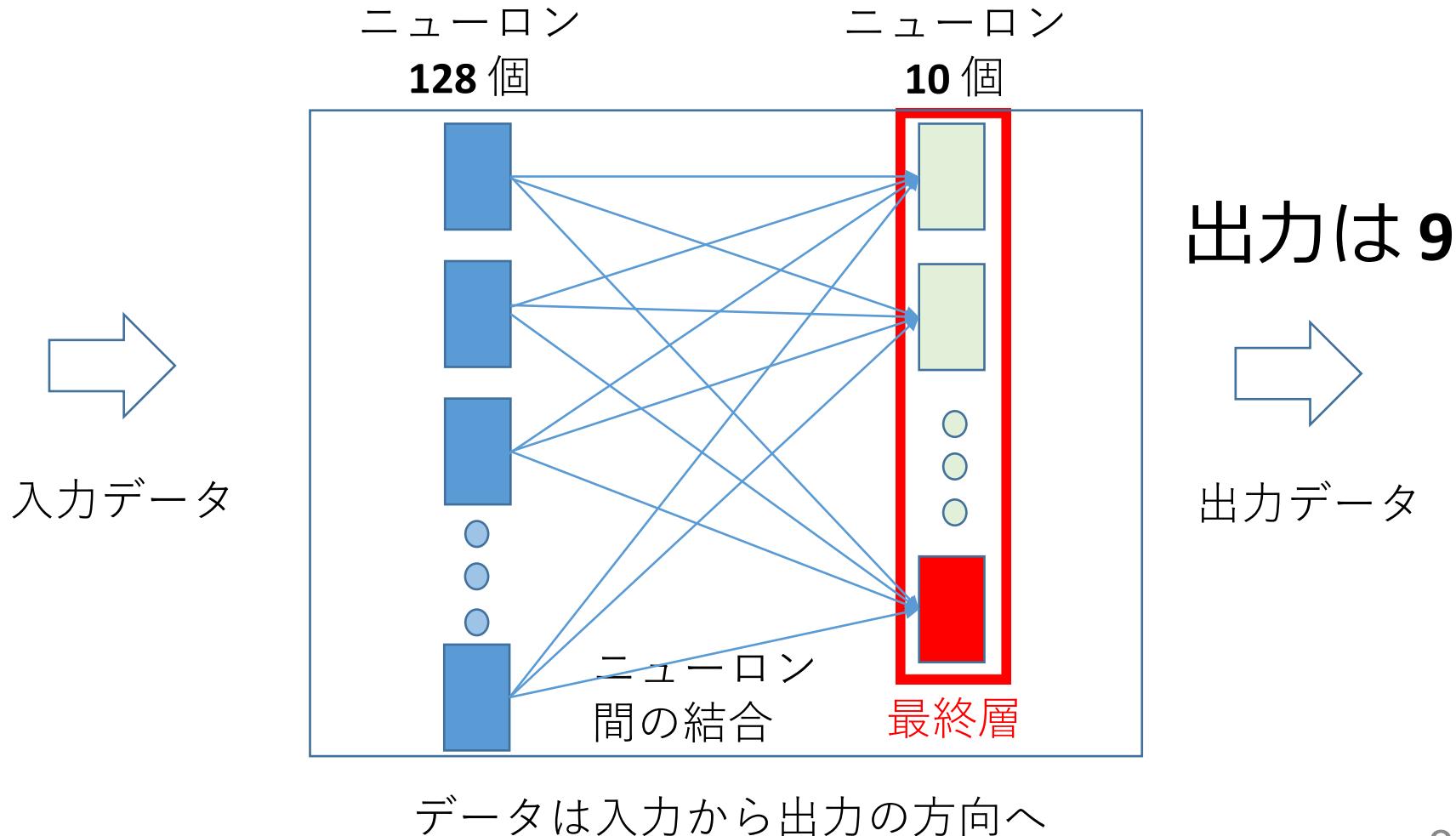
10種類に分類するニューラルネットワーク

最終層について、1つが強く活性化するように調整



10種類に分類するニューラルネットワーク

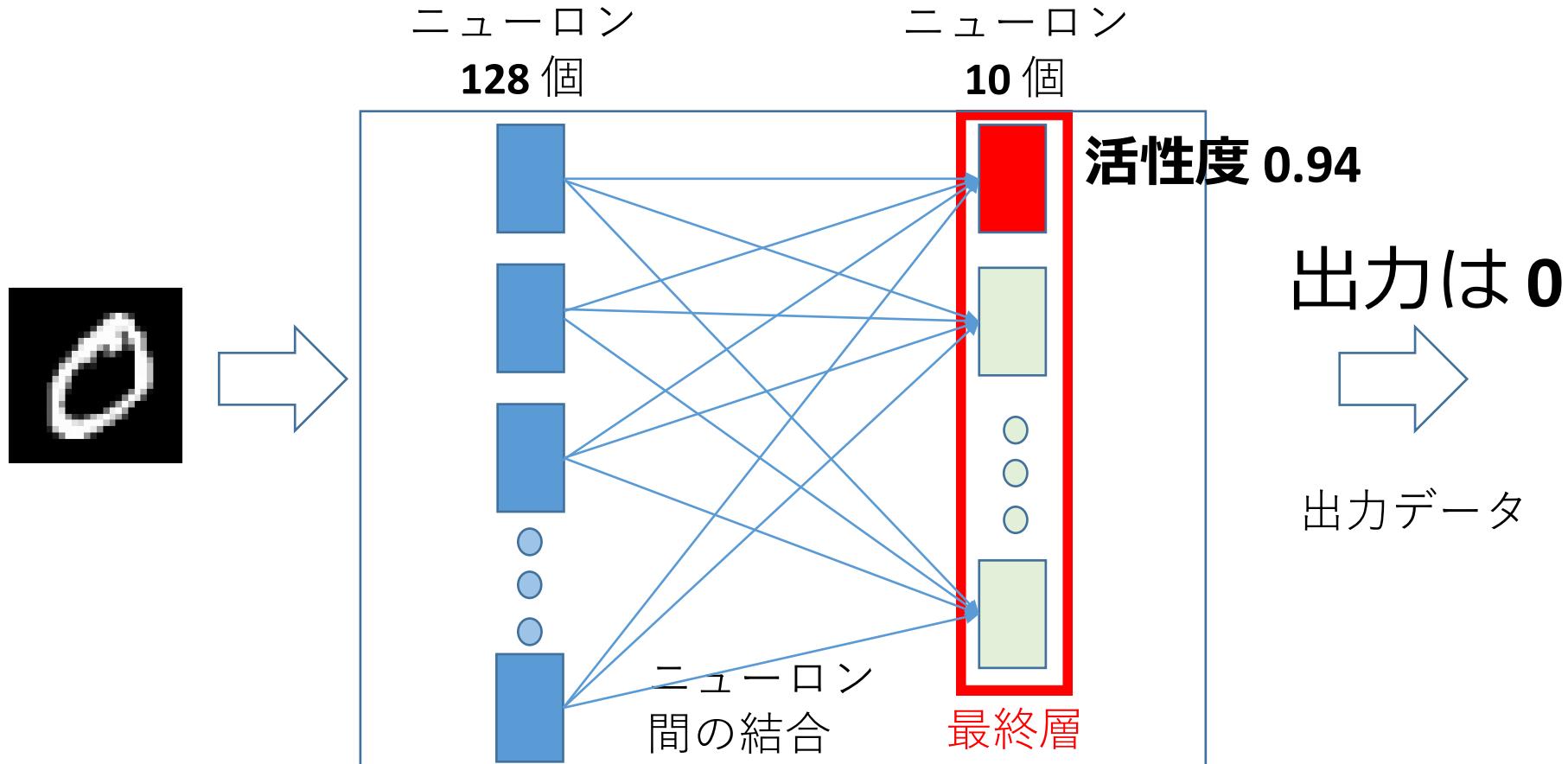
最終層について、1つが強く活性化するように調整



10種類に分類するニューラルネットワーク



最終層について、1つが強く活性化するように調整

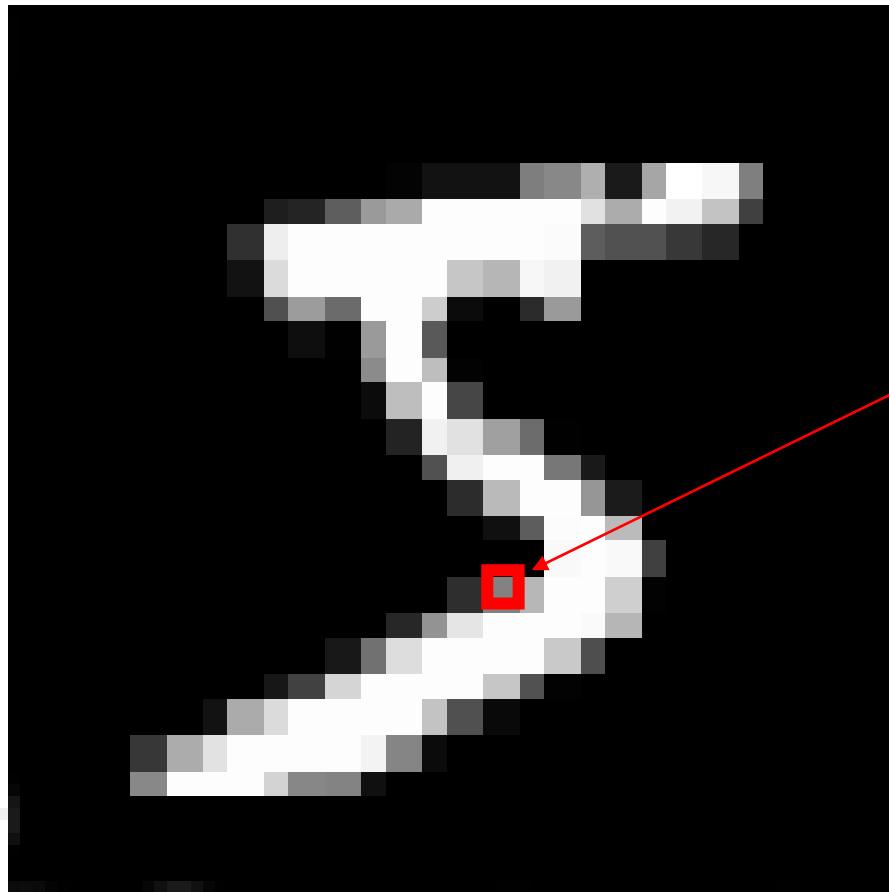


実際には、活性度は0から1のような数値である。

最も活性度の値が高いものが選ばれて、分類結果となる

6. 画像と画素

画像と画素



MNISTデータセット（手書き文字のデータセットで、濃淡画像）

画像サイズ: **28 × 28**

画素



白

画素値

255



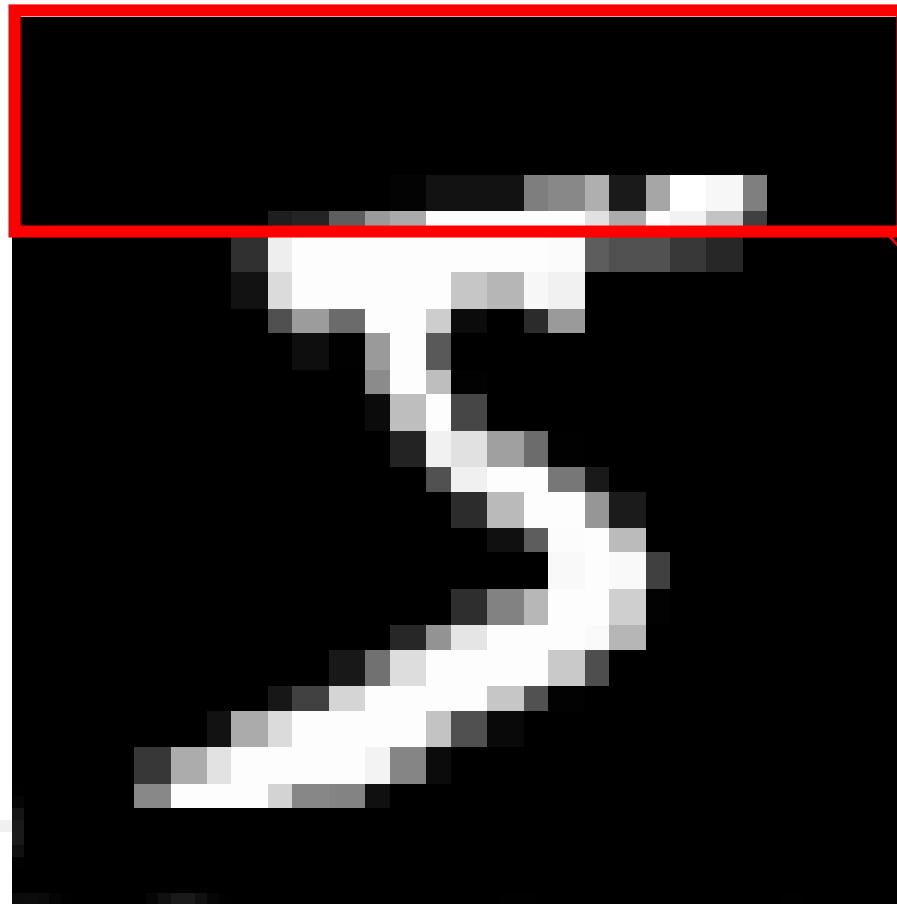
黒

0

画素値は、画素の明るさに応じた 0から255の数値



画像と配列（アレイ）



MNISTデータセット（手書き文字のデータセットで、濃淡画像）

画像サイズ: 28×28

画像全体は、サイズ
 28×28 の 2 次元の
配列

[[0]
[0]
[0]
[0]
[0]
[0]
[0]
[0]
[0]
[0]
[0]
[0]
[0]
[0]
[0]
[0]
[0]
[0]
[175 26 166 255 247 127 0 0 0 0]
[0 3 18 18 18 126 136]
[225 172 253 242 195 64 0 0 0 0]

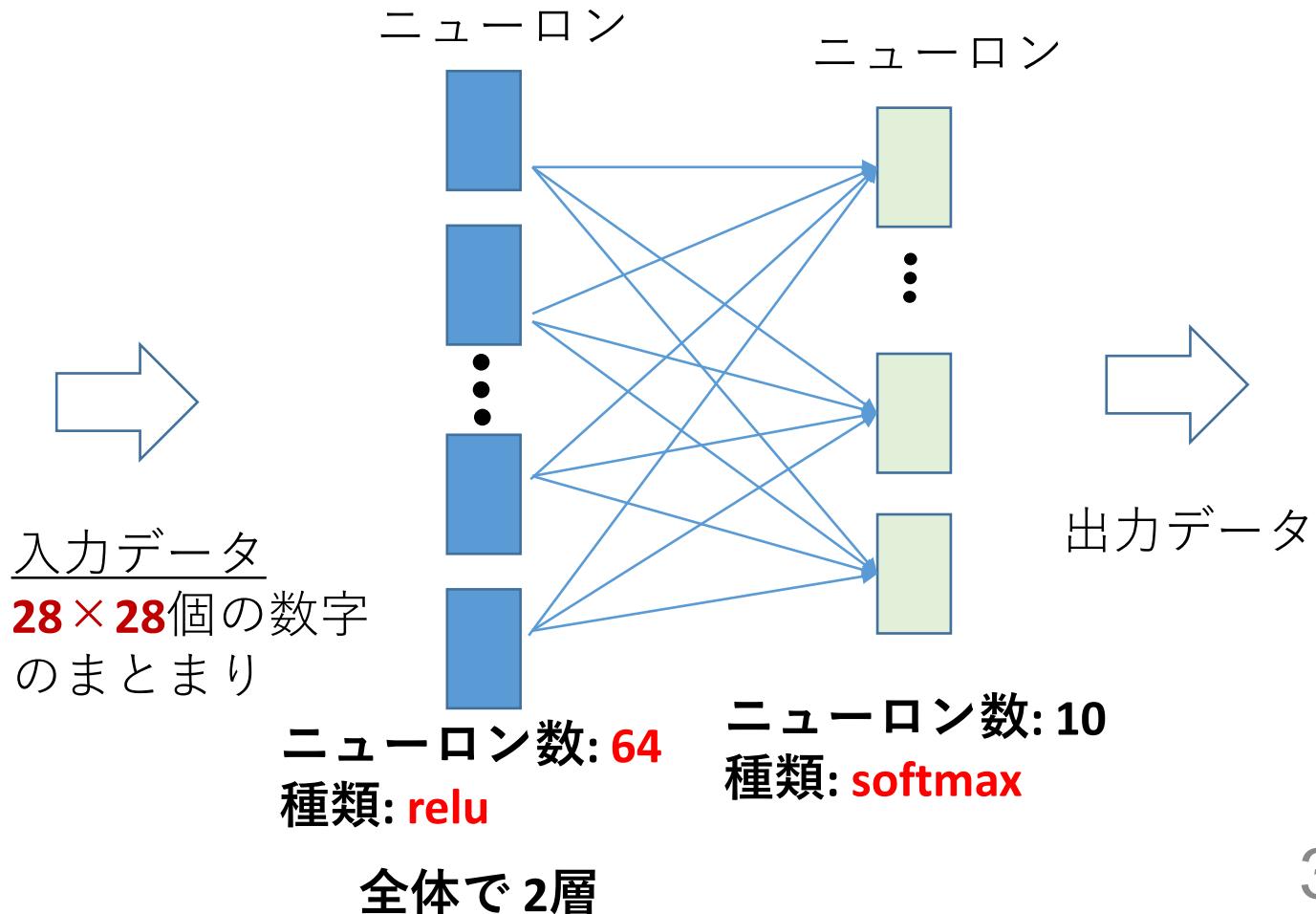
画像の上 7行分の画
素値を表示したとこ
ろ（ 28×7 分）

7. ニューラルネットワーク の作成

ここで作成するニューラルネットワーク



- ・入力： **28×28個の数値のまとめり**
- ・出力： 「**28×28個の数字のまとめり**」について、
10種類の中から 1つに分類



ニューラルネットワーク作成のプログラム例



```
import tensorflow as tf  
from tensorflow.keras.models import Sequential  
from tensorflow.keras.layers import Dense, Activation
```

入力データは **28×28** 個の数字

1 層目のニューロン数は **64**
種類は **relu**

```
m = tf.keras.models.Sequential([  
    tf.keras.layers.Flatten(input_shape=(28, 28, 1)),  
    tf.keras.layers.Dense(units=64, activation=tf.nn.relu),  
    tf.keras.layers.Dense(units=10, activation=tf.nn.softmax)  
])
```

2 層目のニューロン数は **10**
種類は **softmax**

```

import tensorflow as tf
from tensorflow.keras.models import Sequential
from tensorflow.keras.layers import Dense, Activation

m = tf.keras.models.Sequential([
    tf.keras.layers.Flatten(input_shape=(28, 28, 1)),
    tf.keras.layers.Dense(units=64, activation=tf.nn.relu),
    tf.keras.layers.Dense(units=10, activation=tf.nn.softmax)
])

print(m.summary())
  
```

Model: "sequential_2"

Layer (type)	Output Shape	Param #
<hr/>		
flatten_2 (Flatten)	(None, 784)	0
dense_4 (Dense)	(None, 64)	50240
dense_5 (Dense)	(None, 10)	650
<hr/>		

Total params: 50,890

Trainable params: 50,890

Non-trainable params: 0

None

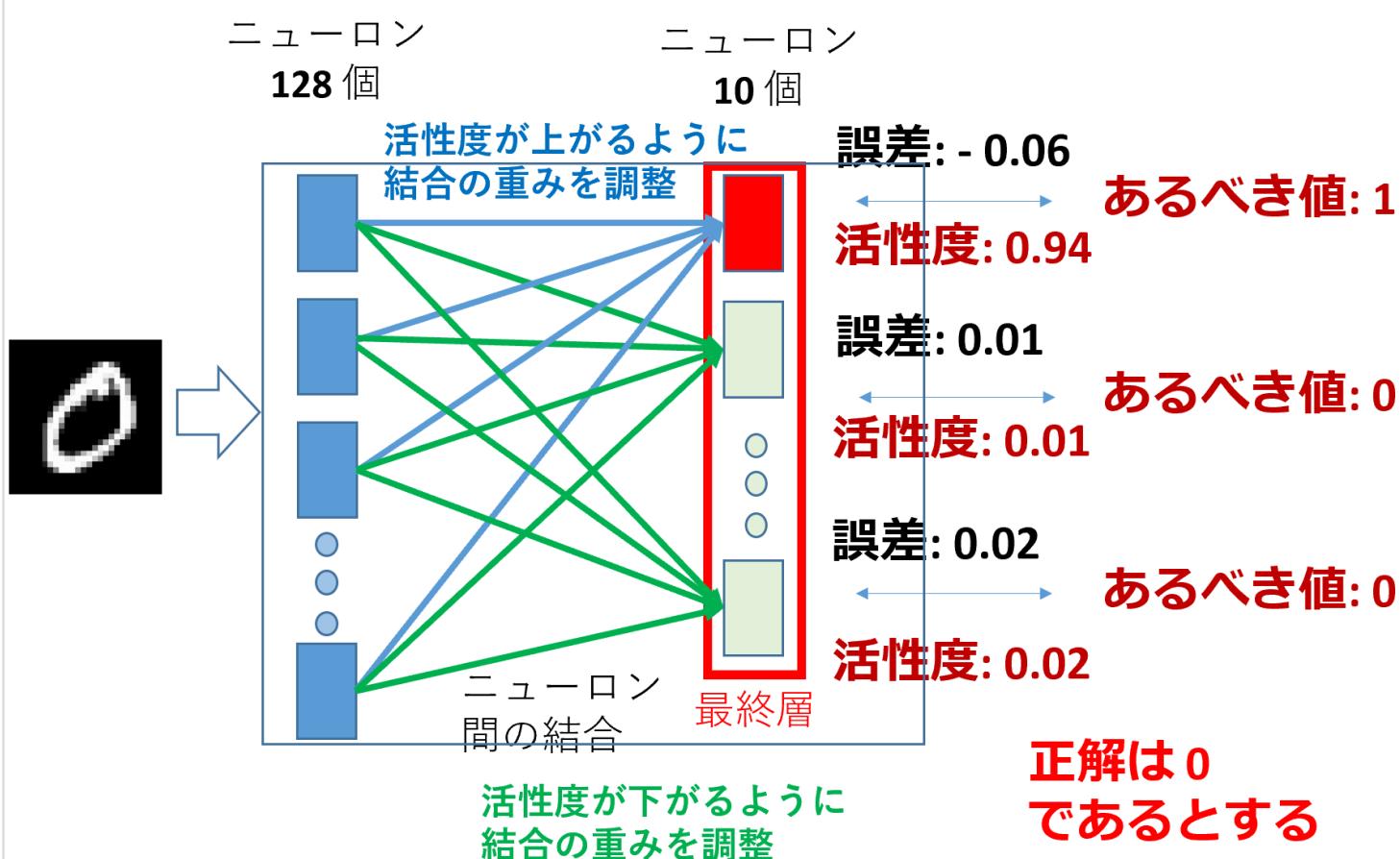
ニューラルネットワークのオブジェクト名は **m**
print(m.summary()) は確認表示

8. 学習不足と過学習

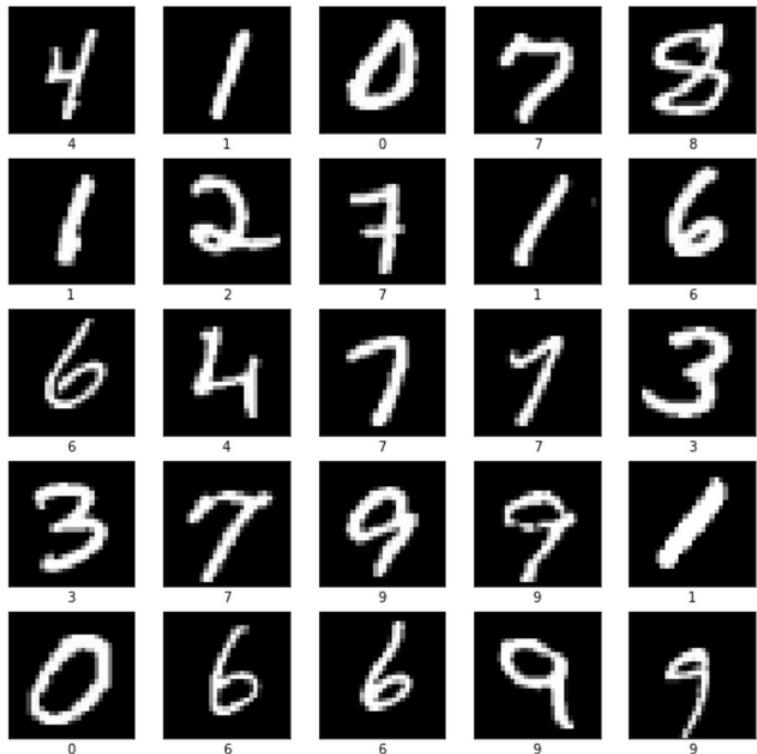
ニューラルネットワークの学習



**学習：訓練データを使い、
適切な結果が得られるように、結合の重みを調整**



訓練データの例



画像 60000枚
(うち一部)

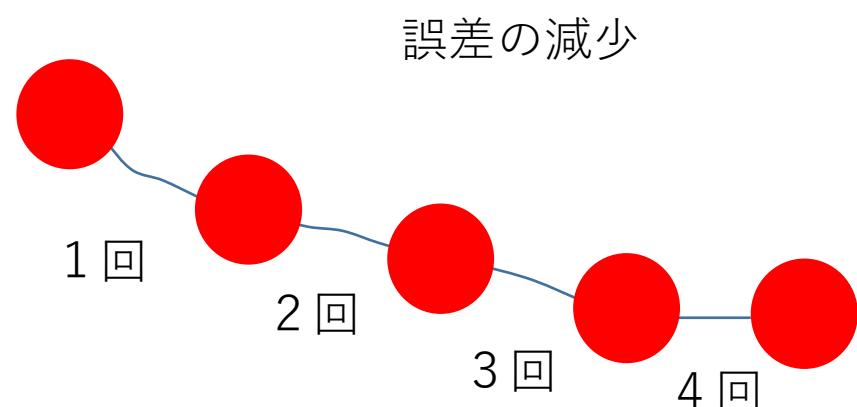
4 1 0 7 8
1 2 7 1 6
6 4 7 7 3
3 7 9 9 1
0 6 6 9 9

正解 60000個
(うち一部)

学習不足



- ・ニューラルネットワークの**学習**では、学習のためのデータ（**訓練データ**）を使う
- ・**訓練データ**を1回使っただけでは、**学習不足**の場合がある
→ 同じ**訓練データ**を繰り返し使って学習を行う。
繰り返しながら、誤差の減少を確認



```
EPOCHS = 20
history = m.fit(ds_train[0], ds_train[1],
                 epochs=EPOCHS,
                 validation_data=(ds_test[0], ds_test[1]),
                 verbose=1)
```

```
Epoch 1/20
1875/1875 [=====] - 5s 2ms/step - loss: 0.2997 - sparse_categorical_crossentropy: 0.2997 - accuracy: 0.9150 - val_loss: 0.1632 - val_sparse_categorical_crossentropy: 0.1632 - val_accuracy: 0.9524
Epoch 2/20
1875/1875 [=====] - 4s 2ms/step - loss: 0.1437 - sparse_categorical_crossentropy: 0.1437 - accuracy: 0.9576 - val_loss: 0.1315 - val_sparse_categorical_crossentropy: 0.1315 - val_accuracy: 0.9599
Epoch 3/20
1875/1875 [=====] - 4s 2ms/step - loss: 0.1049 - sparse_categorical_crossentropy: 0.1049 - accuracy: 0.9686 - val_loss: 0.1018 - val_sparse_categorical_crossentropy: 0.1018 - val_accuracy: 0.9688
Epoch 4/20
1875/1875 [=====] - 4s 2ms/step - loss: 0.0844 - sparse_categorical_crossentropy: 0.0844 - accuracy: 0.9747 - val_loss: 0.0945 - val_sparse_categorical_crossentropy: 0.0945 - val_accuracy: 0.9733
Epoch 5/20
1875/1875 [=====] - 4s 2ms/step - loss: 0.0695 - sparse_categorical_crossentropy: 0.0695 - accuracy: 0.9794 - val_loss: 0.1018 - val_sparse_categorical_crossentropy: 0.1018 - val_accuracy: 0.9691
Epoch 6/20
1875/1875 [=====] - 4s 2ms/step - loss: 0.0589 - sparse_categorical_crossentropy: 0.0589 - accuracy: 0.9827 - val_loss: 0.1003 - val_sparse_categorical_crossentropy: 0.1003 - val_accuracy: 0.9715
Epoch 7/20
1875/1875 [=====] - 4s 2ms/step - loss: 0.0500 - sparse_categorical_crossentropy: 0.0500 - accuracy: 0.9847 - val_loss: 0.0918 - val_sparse_categorical_crossentropy: 0.0918 - val_accuracy: 0.9727
Epoch 8/20
1875/1875 [=====] - 4s 2ms/step - loss: 0.0433 - sparse_categorical_crossentropy: 0.0433 - accuracy: 0.9867 - val_loss: 0.0979 - val_sparse_categorical_crossentropy: 0.0979 - val_accuracy: 0.9717
Epoch 9/20
1875/1875 [=====] - 4s 2ms/step - loss: 0.0373 - sparse_categorical_crossentropy: 0.0373 - accuracy: 0.9889 - val_loss: 0.0904 - val_sparse_categorical_crossentropy: 0.0904 - val_accuracy: 0.9747
Epoch 10/20
1875/1875 [=====] - 4s 2ms/step - loss: 0.0329 - sparse_categorical_crossentropy: 0.0329 - accuracy: 0.9901 - val_loss: 0.1027 - val_sparse_categorical_crossentropy: 0.1027 - val_accuracy: 0.9708
Epoch 11/20
1875/1875 [=====] - 4s 2ms/step - loss: 0.0294 - sparse_categorical_crossentropy: 0.0294 - accuracy: 0.9908 - val_loss: 0.0924 - val_sparse_categorical_crossentropy: 0.0924 - val_accuracy: 0.9756
Epoch 12/20
1875/1875 [=====] - 4s 2ms/step - loss: 0.0251 - sparse_categorical_crossentropy: 0.0251 - accuracy: 0.9921 - val_loss: 0.1053 - val_sparse_categorical_crossentropy: 0.1053 - val_accuracy: 0.9724
Epoch 13/20
1875/1875 [=====] - 4s 2ms/step - loss: 0.0223 - sparse_categorical_crossentropy: 0.0223 - accuracy: 0.9931 - val_loss: 0.0979 - val_sparse_categorical_crossentropy: 0.0979 - val_accuracy: 0.9733
Epoch 14/20
1875/1875 [=====] - 4s 2ms/step - loss: 0.0199 - sparse_categorical_crossentropy: 0.0199 - accuracy: 0.9942 - val_loss: 0.0968 - val_sparse_categorical_crossentropy: 0.0968 - val_accuracy: 0.9747
Epoch 15/20
1875/1875 [=====] - 4s 2ms/step - loss: 0.0178 - sparse_categorical_crossentropy: 0.0178 - accuracy: 0.9944 - val_loss: 0.1180 - val_sparse_categorical_crossentropy: 0.1180 - val_accuracy: 0.9701
Epoch 16/20
1875/1875 [=====] - 4s 2ms/step - loss: 0.0157 - sparse_categorical_crossentropy: 0.0157 - accuracy: 0.9952 - val_loss: 0.1062 - val_sparse_categorical_crossentropy: 0.1062 - val_accuracy: 0.9739
Epoch 17/20
1875/1875 [=====] - 4s 2ms/step - loss: 0.0152 - sparse_categorical_crossentropy: 0.0152 - accuracy: 0.9953 - val_loss: 0.1077 - val_sparse_categorical_crossentropy: 0.1077 - val_accuracy: 0.9735
Epoch 18/20
1875/1875 [=====] - 4s 2ms/step - loss: 0.0120 - sparse_categorical_crossentropy: 0.0120 - accuracy: 0.9965 - val_loss: 0.1193 - val_sparse_categorical_crossentropy: 0.1193 - val_accuracy: 0.9720
Epoch 19/20
1875/1875 [=====] - 4s 2ms/step - loss: 0.0120 - sparse_categorical_crossentropy: 0.0120 - accuracy: 0.9963 - val_loss: 0.1201 - val_sparse_categorical_crossentropy: 0.1201 - val_accuracy: 0.9741
Epoch 20/20
1875/1875 [=====] - 4s 2ms/step - loss: 0.0104 - sparse_categorical_crossentropy: 0.0104 - accuracy: 0.9971 - val_loss: 0.1095 - val_sparse_categorical_crossentropy: 0.1095 - val_accuracy: 0.9748
```

ニューラルネットワークの学習、検証
 20のようにある通り、学習が20回繰り返されている。
 学習のたびに検証を実施。繰り返し学習の間、誤差は減少

ニューラルネットワークの学習のプログラム



訓練データの指定

EPOCHS = 20

```
history = m.fit(ds_train[0], ds_train[1],  
    epochs=EPOCHS,  
    validation_data=(ds_test[0], ds_test[1]),  
    verbose=1)
```

学習の実行

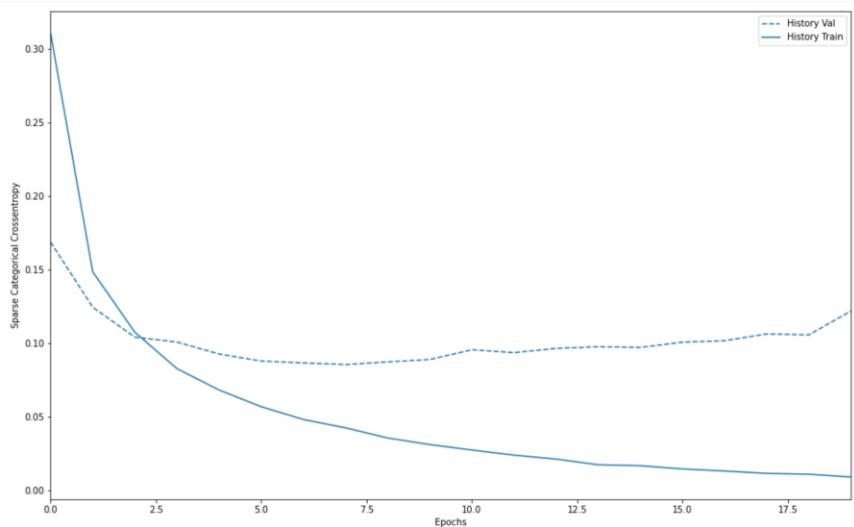
学習を 20回繰り返す

検証データを指定することで、
検証も行われる

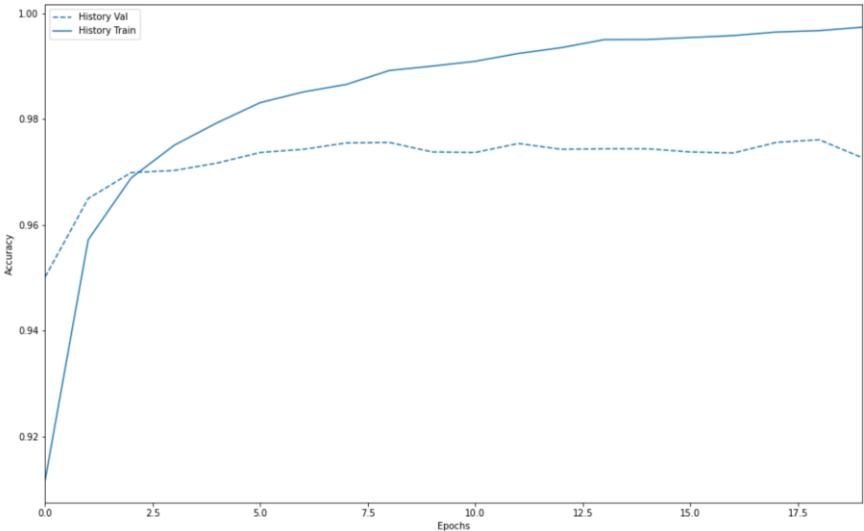
学習曲線



- 学習の繰り返しが進むにつれ、誤差（損失）は減少、精度は向上



誤差の減少



精度の向上



大量のデータがある場合には、訓練データと検証データに振り分けることができる

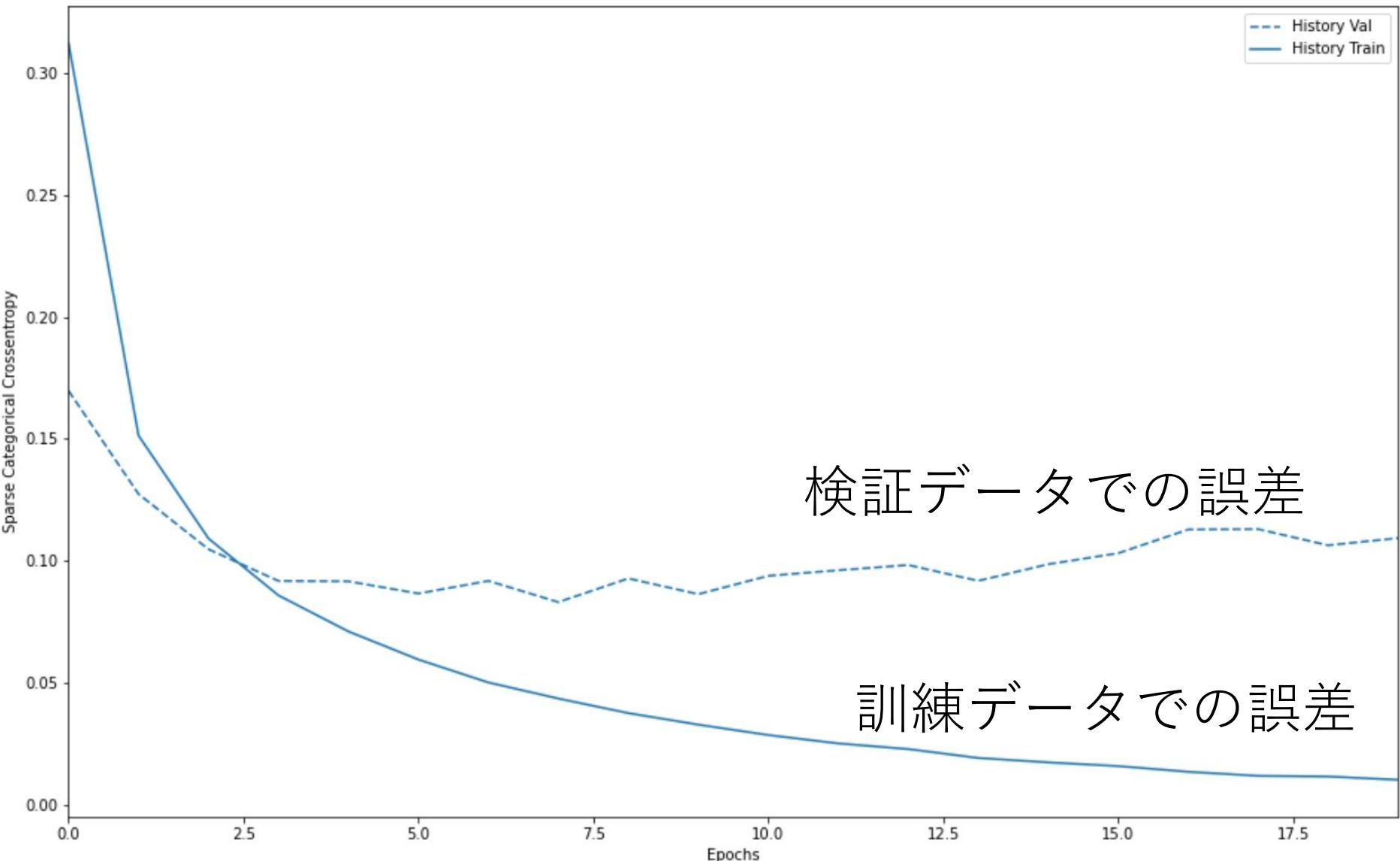
例えば、**70000** 枚の画像データを準備できる場合

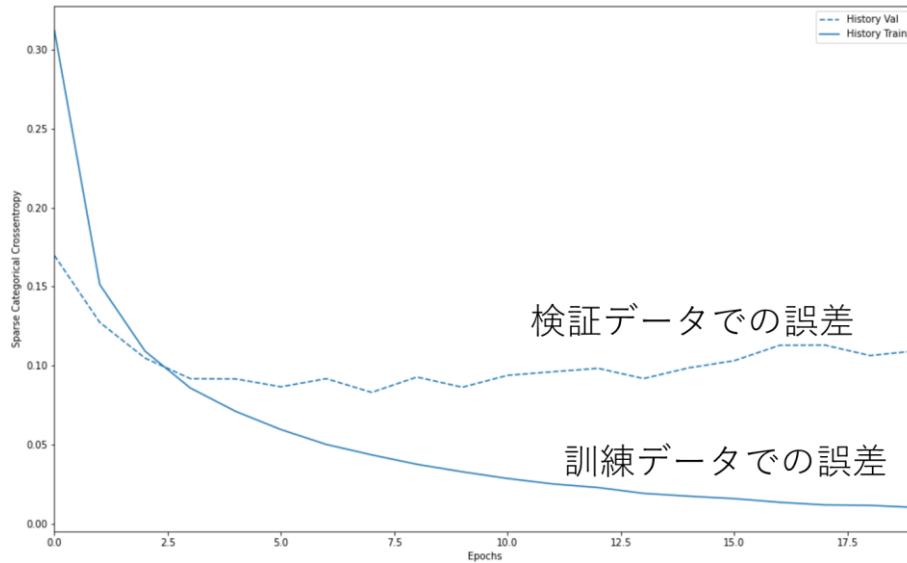
うち **60000**枚 → **訓練データ**として使用

うち **10000**枚 → **検証で使用**

のように考えることができる

※ **訓練データと検証データは別々であることが重要。**
60000 や 10000 のような枚数は、自由に決めることができるもの。





訓練データによる学習の繰り返し

- 訓練データでは、精度が向上するが、検証データでは精度が向上しないことがある = 過学習
- 過学習の発見のため、検証データでの検証が必要
- 過学習では、学習の繰り返しによる精度の悪化もある。学習の打ち切りが必要。

結合の重みの表示



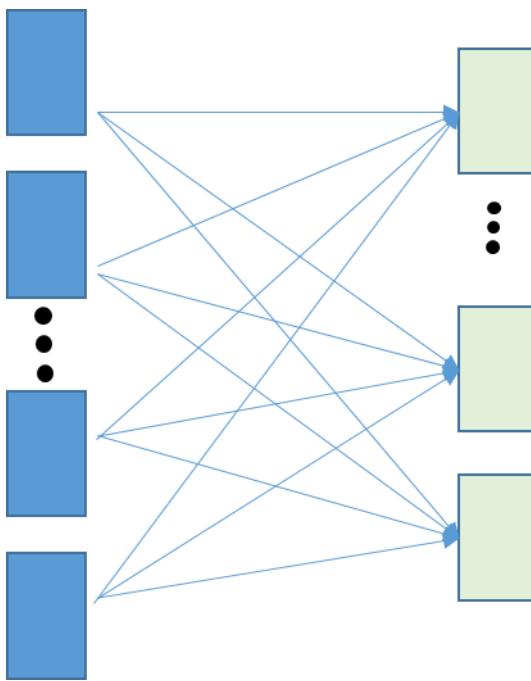
プログラム

```
m.get_weights()[2]
```

実行結果

```
m.get_weights()[2]
```

```
array([[-1.01239467e+00, -3.47466946e-01, -8.09835494e-02,
       7.45151564e-02,  2.85807520e-01,  5.68768084e-01,
      -1.13867247e+00,  4.49037850e-01, -5.76055467e-01,
      3.08223069e-01],
      [-9.73109961e-01,  3.54716599e-01,  2.76776433e-01,
       2.45247036e-01, -7.31139123e-01,  5.26507080e-01,
      -4.12931621e-01,  8.27608228e-01, -4.87542659e-01,
      -1.92633331e+00],
      [-1.54334641e+00,  5.33413351e-01, -2.16112331e-01,
       2.96245068e-01,  3.39144379e-01,  3.52841973e-01,
      -1.73382103e+00,  3.67599517e-01, -8.94106865e-01,
      3.49798262e-01],
      [ 2.79795349e-01,  3.93170774e-01, -1.23119526e-01,
       -2.24058971e-01,  1.40130982e-01, -6.56837881e-01,
       5.34807503e-01,  7.34667897e-01, -1.04529119e+00,
      -5.81060231e-01],
      [ 2.05441475e-01,  1.93122208e-01,  2.66112298e-01,
       -8.21578577e-02,  1.70343146e-01, -2.91442454e-01,
      -2.61067390e-01, -3.78575660e-02, -1.49935138e+00,
       4.05946940e-01],
      [-2.01313898e-01,  3.22882854e-03,  5.78866839e-01,
       -8.86083782e-01, -5.89539528e-01, -9.65685993e-02,
      -1.41050875e-01,  8.38579014e-02,  2.56438136e-01,
      -6.41472265e-02],
      [ 2.73324281e-01, -4.17244375e-01, -2.91900814e-01,
```



学習により
結合の重みが変化する

9. ニューラルネットワークの 利用の流れ

Google アカウントの取得が必要

- 次のページを使用

<https://accounts.google.com/SignUp>

- 次の情報を登録する

氏名

自分が希望するメールアドレス

<ユーザー名> @gmail.com

パスワード

生年月日、性別



Google
Google アカウントの作成

姓 名

ユーザー名

半角英字、数字、ピリオドを使用できます。

選択可能なユーザー名:

bangyanjinzi6 jinzipangyan6 kanekokunihiko72

代わりに現在のメールアドレスを使用

パスワード 確認 

半角英字、数字、記号を組み合わせて 8 文字以上で入力してください

[代わりにログイン](#)

[次へ](#)

使用するプログラム



① プログラムは、次のページで公開

<https://colab.research.google.com/drive/1IfArlvhh-FsvJIE9YTN08T44Qhpi0rlJ?usp=sharing>

② 利用には、Google アカウントでのログインが必要

③ 右上の「ログイン」をクリックして利用開始



④ コードセルを上から順に実行する。

コードセルの実行の終了を確認してから、次のコードセルに移ること

ニューラルネットワークの作成、MNIST データセットを用いた学習とデータの分類

1. パッケージのインポートと TensorFlow のバージョン確認

```
1秒
[1] ✓ [运行]
from __future__ import absolute_import, division, print_function, unicode_literals
import tensorflow.compat.v2 as tf
import tensorflow_datasets as tfds
import numpy as np
import matplotlib.pyplot as plt
%matplotlib inline
import warnings
warnings.filterwarnings('ignore') # Suppress Matplotlib warnings
tf.enable_v2_behavior()
from tensorflow.keras import backend as K
K.clear_session()

print(tf.__version__)

```

2. 8.0

2. MNIST データセットのロード

`tensorflow_datasets` の `load` で、「`batch_size = -1`」を指定して、一括読み込みを行っている。

```
1秒
[4] ✓ [运行]
mnist, mnist_info = tfds.load('mnist', with_info = True, shuffle_files=True, as_supervised=True, batch_size = -1)
```

3. データセットの中の画像を表示

Matplotlib を用いて、0 番目の画像を表示する

```
1秒
[5] ✓ [运行]
import matplotlib.pyplot as plt
```

実行するには
Google
アカウント
によるログイン
が必要

最後まで続ける

人工知能による分類結果



それぞれの数値の中で、一番大きいものはどれか？

```
[19] m.predict(ds_test[0]).argmax(axis=1)
```

```
array([2, 0, 4, ..., 8, 0, 5])
```

- 分類結果は「2, 0, 4 ...」のように表示

学習では、乱数が使用されるので、実行ごとに
結果が変わる場合がある

精度の確認



1.1. 学習（訓練）

学習（訓練）は fit メソッドにより行う。学習データを投入する。

```
EPOCHS = 20
history = m.fit(ds_train[0], ds_train[1],
                 epochs=EPOCHS,
                 validation_data=(ds_test[0], ds_test[1]),
                 verbose=1)

Epoch 1/20
```

途中省略

l_crossentropy: 0.0020 - accuracy: 0.9994 - val

④ accuracy のところ
が精度

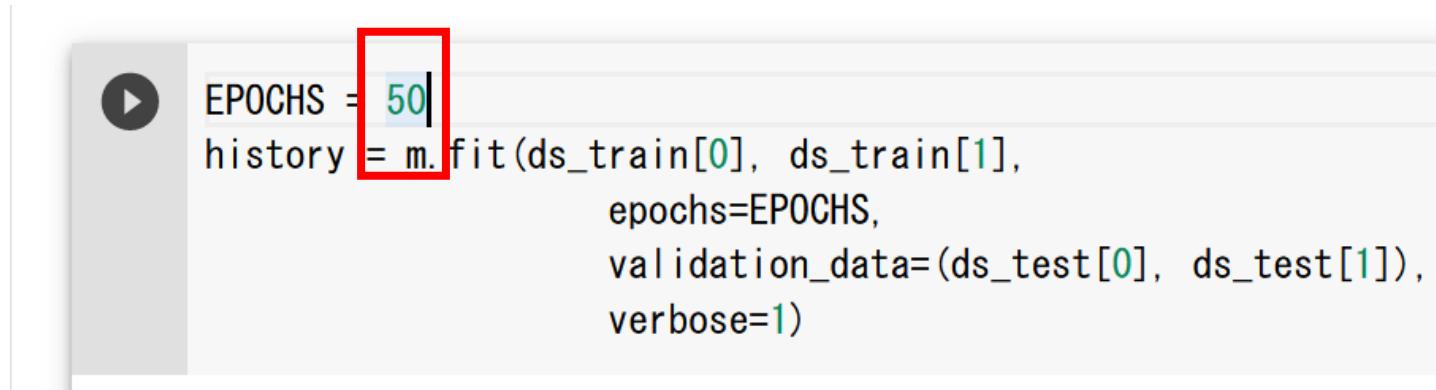
1に近いほど
精度が良い

実験 1



(仮説) **エポック数** (学習の繰り返し回数) は、
いまは 20.
これを**増やすと**、**精度**は上がるかも。

① まず、50に書き換え



```
EPOCHS = 50
history = m.fit(ds_train[0], ds_train[1],
                epochs=EPOCHS,
                validation_data=(ds_test[0], ds_test[1]),
                verbose=1)
```

② 実行。「9. モデルの作成と確認とコンパイル」，
「10. モデルのビジュアライズ」，「11. 学習
(訓練)」のコードセルを順に実行

```
al_crossentropy: 0.0032 - accuracy: 0.9988 - va
```

③ 「11. 学習 (訓練)」
の実行結果の
accuracy のところ
で、精度を確認
1に近いほど
精度が良い

実験 2



(仮説) ユニット数を変えると、精度は変化するかも。

② 実行

```
import tensorflow as tf
from tensorflow.keras.models import Sequential
from tensorflow.keras.layers import Dense, Activation

m = tf.keras.Sequential([
    tf.keras.layers.Flatten(input_shape=(28, 28, 1)),
    tf.keras.layers.Dense(units=1000, activation=tf.nn.relu),
    tf.keras.layers.Dense(units=10, activation=tf.nn.softmax)
])
print(m.summary)
```

① まず、1000に書き換え

③ その下の
コードセルを
「11. 学習（訓練）」
のところまで順に実行

```
[14] m.compile(loss=tf.keras.losses.sparse_categorical_crossentropy,
              metrics=['sparse_categorical_crossentropy', 'accuracy'],
              optimizer=tf.keras.optimizers.Adam(learning_rate=0.001))

[15] from tensorflow.keras.utils import plot_model
      import pydot
      plot_model(m)
```

```
[32] EPOCHS = 50
      history = m.fit(ds_train[0], ds_train[1],
                      epochs=EPOCHS,
                      validation_data=(ds_test[0], ds_test[1]),
                      verbose=1)
```

④ accuracy のところで、精度を確認
1に近いほど精度が良い

cal_crossentropy: 0.0016 - accuracy: 0.9997 -

考察の例



- 繰り返し回数は 20 回で足りている（20 回でも学習不足はない）という場合もある
- ユニット数は、64 で十分に足りているという場合もある。「増やせばよい」というものではない